

大江首席交渉官代理による記者会見の概要
(カトラー米国次席通商代表代行との協議後)

日時：平成27年3月6日（金）15：10～15：15

場所：外務省内

【冒頭発言】

(大江代理)

昨日、今日とカトラー一次席通商代表代行と2日間協議を行った。だいぶ進んではいるが、いつも同じで申し訳ないが、残っている問題は難しい。よく大晦日の大掃除でも、もうすぐ終わりそうというところからいろんな問題が出てきて、中々終わらないのと同じで、難しい問題が残っていると同時に、会ってみて、こういうことも詰めなければならぬといった問題が、お互いに色々出てくるなどして時間がかかっている。

今回は2日しかなかった上、カトラー一次席代表代行が農業と自動車の両方を担当しているの、時間の取り合いとなり、まだ十分話を尽くせていないところがある。しかし、来週、ハワイでヴェッター首席農業交渉官も来るので、引き続き話し合いは続く。来週の方がもう少し時間があるので、色々話ができるのではないかと。

【質疑応答】

(記者)

来週ハワイを控える中で、今回、率直に日米の間合いは詰まったと言えるか。

(大江代理)

間合いは詰まっているが、新たな問題というよりは、詰めておかなければならないという新たに認識されている問題もあるので、まだやるべきことはある。ヴェッターの方が農業の専門家なので、そういう話も含めて全部やりたいと思う。

(記者)

閣僚級の協議を行うまでには、まだまだ時間がかかりそうか。

(大江代理)

まだまだ時間かかるという程時間はないので、できるだけ、閣僚ができるようなところまで間合いを詰めたいと思う。だが、来週、そこまで詰まるか保証はない。

(記者)

米国議会でTPAの法案審議が遅れているという状況だが、その中で、日米の閣僚級の協議はいつ頃をめどに行いたいか。

(大江代理)

あまり時間のめどは作らないようにしているが、日米がまとめるのにTPAが必要という立場は我々は取っていないので、それを待つことなく、できるだけ

早くまとめたい。

(記者)

新たに認識せざるをえない問題というのは。

(大江代理)

技術的な問題が色々ある。

(記者)

今まで話し合っていた具体的な品目についてどう調整するかということか。

(大江代理)

我々が議論する際は、概念や色々な形で議論するが、最終的には案文に落とし
ていけないといけない。そういうプロセスの中で、お互いの認識の差などが出て
くることがある。それは必要なプロセスであり、どのような条約交渉でも最終
段階ではそういうことになる。

(記者)

前回のニューヨークの際は、それぞれが国内調整の時間が必要だということ
だったが、国内調整を経た結果として、まだまだ決着しない問題が出てきたと
いうことか。

(大江代理)

残っている問題は、違うタイプの2つの問題がある。1つは、技術的な問題で、
きちんとした形で詰めないといけない問題が多くある。新しく出てきたという
よりは、新しく認識されたもの。もう1つは、中身で難しい問題で、最終的には
政治的な判断を要する問題。これは、中々、現在の段階で私のレベルでカードを
切るようなことはできないので、お互い着地点を探り合っているという感じ。

(記者)

着地点の探し合いは、それなりに進んだのか。

(大江代理)

探し合いなので、進んだかどうかは認識の問題なので、中々難しい。

(記者)

来週、ハワイでやればある程度めどが立つ可能性はあるか。それとも、また、
カトラーを含めて協議をする必要があるか。

(大江代理)

可能性はあるが、私の方については、多分そうなるだろうという程自信はない。

(記者)

ヴェッター首席農業交渉官と話し合いでは、技術的な問題を詰めていくのか。

(大江代理)

両方である。

(記者)

政治的なものの探り合いもやるということか。

(大江代理)

もちろんやる。閣僚で最後は判断しないといけないと言っても、まったくどこに落ちるか分からない状態で閣僚に丸投げするのは、あまりにリスクが高いプロセスになるので、お互いに何も言えない中で、できるだけ着地点の認識を近いところに持っていかないと、閣僚をセットするのはリスクが高い。

(以上)